

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271800389		
法人名	社会福祉法人 桜江福祉会		
事業所名	陽光苑グループホーム		
所在地	島根県江津市桜江町長谷2723番地2		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和3年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、まわりを山々に囲まれた、自然あふれる場所にあります。春には山桜、青々と眩しいほどの新緑から秋の紅葉、冬の雪山と四季折々の情景を楽しめます。庭先に花を植えたり、畑仕事を職員と一緒にすることで、やりがいと収穫期の満足感を味わっていただいています。コロナ禍にあり、外出を控えているため、体操、レクリエーション活動などにより、下肢運動を行い転倒防止をはかっています。利用者様が笑顔で過ごしていただけるように職員も思いやりの心を持って接し、楽しみを共有できる家族のような関係でいられるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな場所に位置し、ゆったりとした敷地を有し自然災害の危険性も少ない恵まれた環境にある。隣に母体の特養、デイサービスがあり、同法人内には他にも複数の在宅サービスがある。昨年4月に管理者は交替。同時に始まったコロナ対応で職員の精神的負担は大きかったことと思われる。以前から地域との繋がりが強かったが、今年は奉仕作業や行事での交流の大半が中止になっている。隣の特老への行事での行き来も限られ、面会や外出制限が続く中でも、何とか利用者の楽しみになるように取り組んでいる。季節の行事や運動不足にならないように体操を取り入れたり、職員のみで様々な工夫をしている様子が伺える。利用者、職員の全員が女性でゆったりとしたアットホーム感が心地よい。できるだけここでの生活が続けられるようケアの向上に努めていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍にあり、地域の方との交流は全くないものの、家庭に近い環境の中で安心して共同生活が送れるよう支援を行います。「安らぎ、自信、よろこび」の理念を継続している。	以前からの理念を引き継いでおり、申し送り後には全員で復唱して、考え方を共有するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年参加している、地域行事にもコロナの影響で全く交流出来ていない。	これまでは地域との関わりが多く、認知症サポーター等のボランティア交流が盛んだったが今年はできていない。唯一施設周辺の奉仕作業が行われたので、職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉会のホームページの中で認知症がある利用者様が生き生きと生活している様子を伝える中で日々職員が実践している様子も確認していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者様代表・包括支援センター等が参加し定例で開催している。会議ではグループホーム便りに添って状況報告のほか、出席者の感想、意見、要望を必ず聞くようにし、サービス向上に活かせるよう心掛けている。	年度当初のコロナの少ない時期には例年のように民生委員、地区役員、包括、家族代表、他施設の管理者等で開催していたが、その後は施設内で行い内容を書面で送る形をとっている。様子を伝え意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の認定調査では、暮らしの様子や普段感じる問題点等を伝えている。運営推進会議には包括支援センターの職員が毎回出席され、議題に沿った直面する課題等について助言・協力を得ている。	運営推進会議には毎回参加があり、意見を得ていた。コロナの中での対応や面会できない中での工夫、ストレスに関してなど、助言をもらっており、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議の後に、身体拘束委員会を開催している。職員にも方針を伝え周知を図っている。	2か月に1回運営推進会議後に身体拘束委員会を開催している。管理者、看護師、家族代表、地域代表の4名で行っている。委員会での内容に加え、より理解しやすいよう具体的な事例を用いて、職員に周知するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束の事実がない事は、運営推進会議、身体拘束委員会の中で伝えている。また、「身体拘束、虐待」について内部研修を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では制度を活用されている利用者様はいない。年間研修計画に入れ、研修のなかで職員が周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に「運営規定」「重要事項説明書」に基づき説明を行っている。入居後も家族と連携を図り、不安・疑問点があれば説明を行い理解を得られるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等は日頃の職員との会話から把握し、コロナ禍にある為、家族とは電話等で確認している。2か月に1回、近況報告の便りを送っている。	毎年夏祭りの後家族会を開催しており、家族関係者から意見を得ていたが今年中止。2か月に1回行事等の写真が載った便りや、年賀状と一緒に書いて送るなど関わりを増やすことで、多くの意見が聞けるようには配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時に意見交換・提案を行えるようにしている。決定されたことは申し送りノートで共有している。	管理者はこのグループホームでの経験が少ないが、他の職員は皆慣れており、日ごろから何でも言い合えるような関係ができていますと感じている。	この雰囲気大切に、よりチームワークを高めたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場では誰もが何でも言い合える環境を構築している。年2回の賞与・勤務希望を取り入れたり必要に応じて有給休暇を取得することで、働きやすい環境を作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にあり、外部研修への参加がなく、内部研修にて職員の研鑽を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあり、直接の交流はありませんが、運営推進会議の書面での交流をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった時点より相談に努め、入居決定時にはサービス開始前より情報交換を行いより良いケアのためにご本人の生活歴の把握に努めて居る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍にあり、事業所への立ち入りが中止となっており、電話により、利用者様の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の段階で本人・家族が困っていることや思いを伺い、まずは安心した生活を送るうえで必要ごとを提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を敬いながら、お互いが尊重しあえる、対等な立場になれるよう配慮し、暮らしを共にしていると思えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を聞き、本人にあったケアを検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に出す手紙・年賀状など職員が手伝い、馴染みの関係が維持できるように支援している。	毎日母体の特老の仏壇にお参りに出かけており、入居者やショートステイ利用中の方と出会う機会となっている。地域の2軒の美容院から交替で来てもらい散髪してもらうなど馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を理解し、食事の席やコミュニケーションを円滑に行えるよう職員が間に入り関係をもてるようにしている。また孤立しないよう常に寄り添うことも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内のケアマネを中心に情報共有を行い、連携や経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とコミュニケーションをとり、会話から本人の思いをくみ取り、実現出来る様にとりくんでいる。	思いを聞き出すことは難しい為、2つから選んでもらうように問いかけ、自分の言葉で答えられるようにしたり、行動をせかさず動きを見ながら判断するようにしている。家族からは認知症の進行防止や運動を希望する意見がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や生活環境を本人、家族関係者から聞き取り記録し、ケアサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護日誌、ケアカンファレンスで一日の過ごし方や心身状態を把握し、自分で出来ること、支援の必要なことを見極めながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見と家族の希望を取り入れて、計画の見直しを半年に一度行っている。本人の意向表出が困難な時には、職員が本人の視点に立ち意向を代弁している。	ケアプランの実行を意識しながら毎月1回モニタリングを行っている。今年は関係者参加での担当者会議の開催ができないため、書面や電話等で意見を得て計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、体調の変化等を記録し、申し送り(朝・夕)を通じて情報を共有している。その記録をもとに必要に応じてカンファレンスを行いケアの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護認定の申請代行を行ったり、家族に依頼している紙パンツ・歯ブラシ等が届くまでに間に合わない場合には職員が代わりに購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にあり、外食・買い物等、中止としている。受診時、帰る際には売店、自販機にてコーヒー等嗜好品などを購入し楽しみをもっといただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の週2回の往診及び24時間体制での支援が確保できている。総合病院への受診が必要であれば、嘱託医の紹介状を持参し円滑な受診を支援している。その他の専門への受診は家族の協力を得ながら必要に応じ実施している。	以前からのかかりつけ医を継続しながら、定期的な嘱託医の往診をうけるようになっており、他の科の受診が必要な場合も、職員が付き添っている。週2回の往診に緊急時の対応も可能で家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師免許のある職員がおり、日々の細やかな体調変化については相談している。必要に応じて同施設の看護師に、報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、連携室や病棟看護師と情報交換を行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、利用者様・ご家族様に重度化した場合の方針を説明し理解を得ている。重度化に近づいた時は、ご家族が安心出来るように話し合いを行い、今後のケアについての話をしている。	同敷地内に母体の特老があるため、重度化した場合でも受け入れができており、グループホームでの看取りは行っていない。特老の入所申し込み済みの方もいるが、重度でも移動を希望されない方もあり、合わせた対応をとるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応出来るよう応急手当普及員講習に参加したり、年に一度、心肺蘇生法・AED操作の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導の下に、日中・夜間を想定し、通報・消化・避難誘導の訓練を実施している。グループホームだけの月1回の避難訓練も実施している。	自然災害の危険性が少ない為、主に火災を想定した避難訓練を月に1回実施。出火場所を変え避難誘導を行っている。隣の特老との合同訓練も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切にし、受容と傾聴を常に心がけるよう職員に啓発している。「もし自分や自分の家族だったら」の視点に立ったケアが基本であることを繰り返しつたえている。トイレなどの介助時は声掛けやカーテン等に配慮している。	特老と合同で接遇研修を行っている。今年度はグループホーム内での内部研修ができていなかったが今後に予定。ケアで気になる点については、個人的に指摘するのではなく全体の事として伝えるようにしている。	接遇を含め幅広い内容の研修に取り組むことで、ケアの向上を目指していただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の気持ちを押し付けることのないように注意し、ご本人の意向を引き出せるような声掛けを行うようにつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様の生活リズムに合わせて、安全を確認した上で、その人らしい生活が送れるよう努めている。そして、なるべく自発的行動を引き出そうと努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在はコロナ禍にあり、外部の出入りができないため、中止としているが、月1回、訪問サービス業者に来苑いただき、利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成したメニューを基に利用者様一人一人の力を活かしながら調理・テーブル拭き・お茶入れ・配膳・食器洗いを一緒に行っている。	全員女性で調理等が好きな方が多く、食材を切ったり、皮をむいたり、味見、盛り付けと職員と一緒にやっている。食事前には口腔体操を続けている。感染防止の為にテーブル中央にパネルを設置している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、利用者様個々の状態の把握に努めている。栄養士作成のメニューで摂取カロリーは把握しており、状態に合わせた食事形態の変更にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。個々の能力に合わせて支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本とし、声掛けが必要な利用者様には随時声掛けを行っている。膝痛のため夜間、歩きにくい方にはポータブルトイレを使用いただき排泄の失敗がないように支援している。	殆どの方が尿意があり、トイレでの排泄を促している。車いすの方もトイレ介助している。全員が紙パンツにパットを使用しており、個々に合った物を家族が持参している。尿量に合わせて使い分け不快にならないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を随時確認して記録に残すとともに、乳製品・食物繊維を多く摂れる工夫や毎日体操を行っている。主治医の指示のもと、下剤調整を状態に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴していただいている。利用者様のペースに合わせて急がず、ゆっくりと入浴できる支援を心掛けている。入浴剤やゆずを入れ、入浴を楽しんでいただいている。	家庭用の浴槽のため重度で車いすの方はシャワー浴対応になっている。毎日午後3名づつ1対1でゆっくり入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気を消さないと寝付けない人、テレビを見る人など生活歴や生活習慣を把握し対応したり、昼間と夜間の相関関係を分析し安眠に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の内服薬・効能を把握できるようにファイルを作成している。内服変更があれば連絡ノートに記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除、調理など能力に応じた手伝いをしていただいている。コロナ禍にあり、外出は出来ないものの、手作りおやつ、誕生日会、行事でのお弁当などで楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にあり、外出はできないが、天気の良い日には苑の周りの散歩をし、気分転換を図っている。	コロナの少ない時期にはドライブに出かけたこともあったがその後は中止している。敷地内が広いので散歩したり、隣の特老まで毎日お参りに行くことで外出の機会としている。天候のいい時期には玄関先でお茶を楽しむことで気分転換に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様は現金は所持されていない。現在は外出できていないが、外出時の買い物の際には、能力に応じて支払い等を行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や親戚の方より宅配物が届いた場合にはお礼の電話を入れ、ご本人と話せるよう支援している。年賀状などのコメントを自筆出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である、食堂の壁面には、季節感のある作品を利用者様と職員とで作成し展示している。各居室には、利用者様の作品を展示し、生活感のある居心地よい雰囲気作りに努めている。	山合の大変静かな所で自然に囲まれており、窓からはいつでも季節を感じることが出来る。食堂も居室前の廊下も移動に充分で広くゆったりとしている。夏は涼しいが、冬場はエアコンにファンヒーターを併用し温度管理に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、お一人でも又、気の合った利用者様同士でくつろげるようにしている。利用者様同士で居室を行き来をし過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが落ち着いて過ごせるよう趣味の作品や思い出の写真などを飾り、思い思いの空間作りを支援している。	衣類用のダンスと床頭台が備え付けになっているため、あまり多くの物は持ち込まれていないが、仏壇やテレビ、イスなどが置かれている。思い出の写真等を飾ったり、居室の入口には銘々暖簾をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・食堂・トイレに手すりがついており、安全に移動ができ、自立した生活が送れるようにしている。また、居室には表札とのれんがあり自分の部屋がわかるようにしている。		